5 大学院学生について

家 計 …… 48

奨学金、近親者の支援がなくては成り立ちにくい大学院学生の家計

大学院学生の**6割**が近親者の支援を受けている。奨学金を利用している割合も**4割超**

満足度 …… 49

大半の大学院学生が、それなりに満足。専門職大学院では改善余地ありか？

大学に関する様々な満足度　70～80%が「満足」もしくは「やや満足」

満足度を更に高めるには …… 50

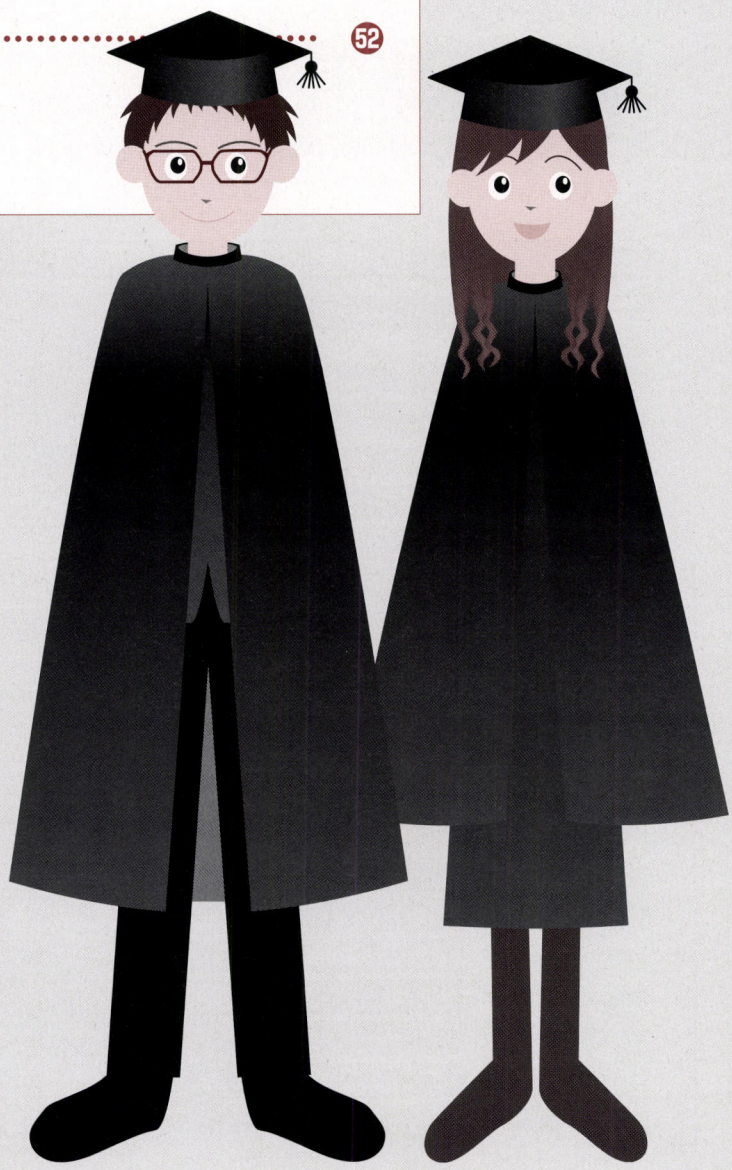
大学院学生の総合的な満足度は、
ソフト（教員）とハード（大学設備）に影響される

学生満足レベルに関連する10項目　教員が大学院学生の健康を支えている？

なぜ早稲田なのか …… 52

早稲田ブランド依然強力、
しかし決め手は教育・研究の質と教員か？

理工系研究科では**90%超**が学部から持ち上がり、
職を辞しての入学者は「教員」という指標を重視



大学院

奨学金、近親者の支援がなくては成り立ちにくい大学院学生の家計

家計

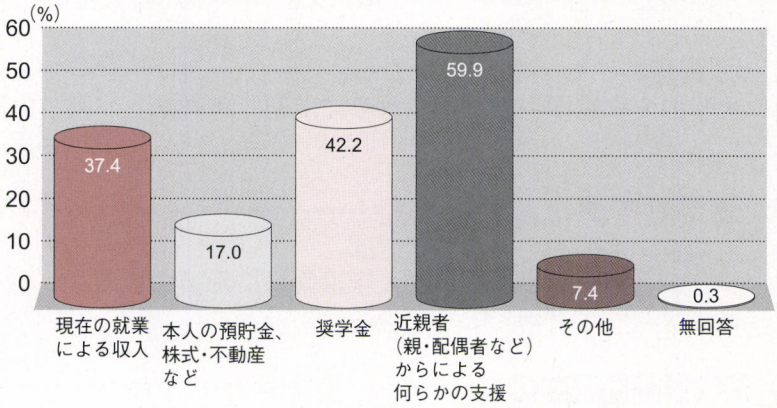
POINT 大学院学生の**6割**が近親者の支援を受けている
奨学金を利用している割合も**4割超**

まず初めに、今回の調査では、いわゆる専門職大学院が調査の対象外となっている点をことわっておきます。

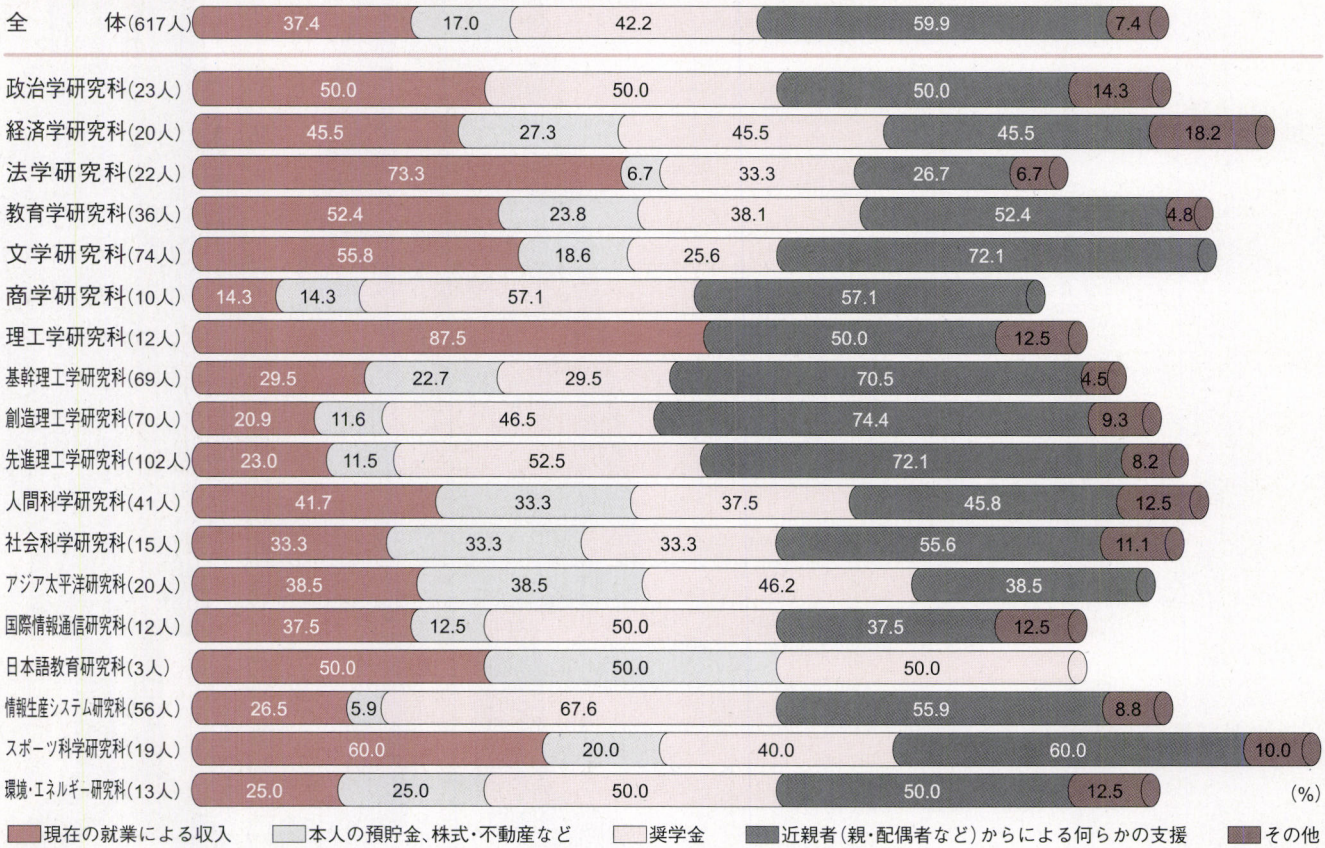
現実を振り返ったときには、大学院学生が一般に自分の力だけで家計を支え勉学を続けていくことは相当に困難なことであるという状況が浮かび上がってきます。今回調査対象となった大学院学生の59.9%が「近親者（親・配偶者など）からによるなんらかの支援」を受けており、奨学金受給者も調査対象の42.2%に達しています。

研究科別で見た場合には、法学研究科の73.3%および理工学研究科の87.5%が、「現在の就業による収入」をも使いながら大学院生活を送っており、これは他研究科の傾向とは有意に異なった傾向となっています。

現在の学費・生活費の収入源として該当するものは何ですか？［複数選択可］



現在の学費・生活費の収入源として該当するものは何ですか？［複数選択可］ 所属箇所別



大学院

大半の大学院学生が、それなりに満足 専門職大学院では改善余地ありか？

満足度

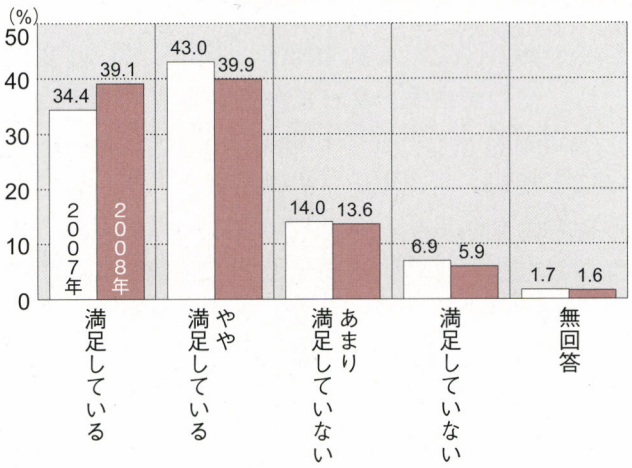
POINT 大学に関するさまざまな満足度
70～80%が「満足」もしくは「やや満足」

「満足」もしくは「やや満足」と回答した大学院学生の比率を合計すれば、「研究指導方法」に関して79%、「授業・研究環境」に関して74.8%、「大学の設備」に関して73.4%となっており、一般に70%超の大学院学生は現状に対してそれなりに満足していると判断することができます。しかし一方で、「満足していない」もしくは「あまり満足していない」と答えた大学院学生の比率も20～25%（約４人に一人！）程度いることを考えれば、まだまだ改善の余地は大きく、大学はその最も大切な資産であり顧客でもある学生の声に真摯に耳を傾け愚直に改善を重ねていく必要があります。

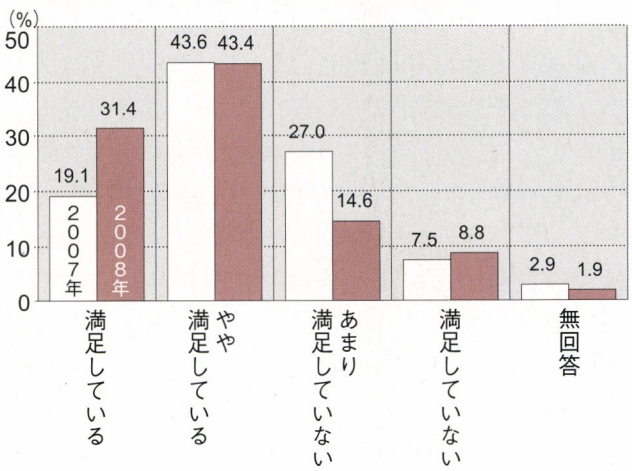
図にあるとおり、本年度の結果と昨年度の結果を比較してみると大きな違いに気づきます。「研究指導方法」ではほとんど差がないものの、その他の二つの設問に関して本年度は、それなりに満足している大学院学生の比率が大幅に上昇しています。本年度の調査において、専門職大学院が調査の対象から外されたことを勘案すれば、専門職大学院において、授業や設備に対して相対的に高い不満が溜まっていることが推測されます。現状を把握した上で、何らかの対策がとられるべき点と思量されます。

最後に、本年度調査における大学院別のデータを参照すれば、残念ながら、それぞれ統計的に有意なレベルで(1)研究指導方法に関して、アジア太平洋研究科の学生は、満足していない、(2)授業・研究環境に関して、国際情報通信研究科の学生は、あまり満足していない、そして(3)大学の設備に関して、政治学研究科の学生は、満足していない、という結果が出ています。これらの結果に対しても、より詳細なデータを収集し現状分析したうえで対策をとっていく必要があります。

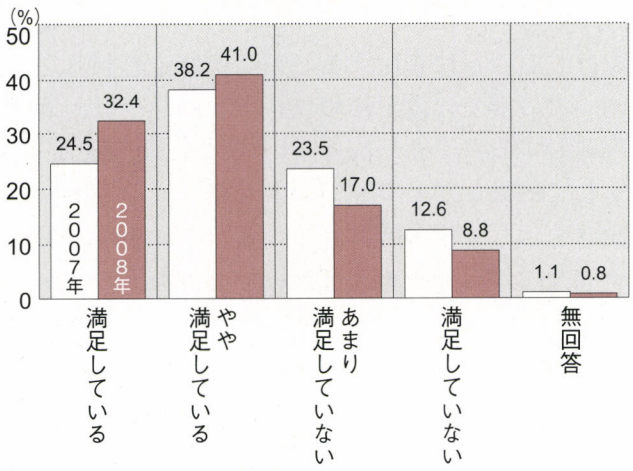
現在あなたが受けている研究指導方法に満足していますか？



現在の授業・研究環境に満足していますか？



大学の設備について満足していますか？



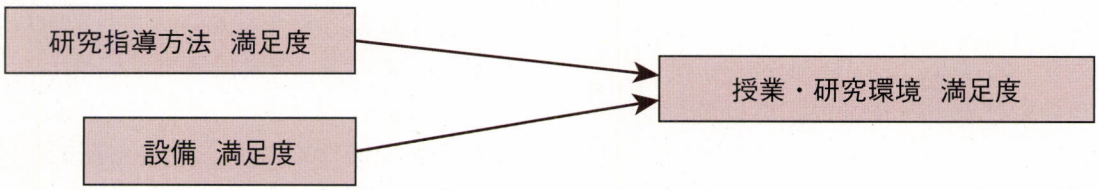
大学院

大学院学生の総合的な満足度は、ソフト(教員)とハード(大学設備)に影響される

満足度を更に高めるには

POINT 学生満足レベルに関連する10項目
教員が大学院学生の健康を支えている?

大学院学生満足度



注1：ここでは大学院学生の満足度に関してのみ分析している。
注2：ここでは相関係数のみをもとにモデル化している。従い、厳密な因果関係が議論されているわけではない。

どのようにすれば、大学院学生の授業や研究をする環境に関する満足度を高めていくことができるのか、ということは学生、教員双方の最大の関心事と考えられます。今回調査の様々な設問間の意味のある関連（有意な相関 ― 注1、注2）をもとに、その可能性を探ってみたいと思います。

今回の調査データの分析結果をもとにすれば、ほぼ“授業・研究環境”の満足度＝大学院に対する総合的な満足度、と推定され、この満足度は“研究指導方法”に対する満足度と“設備”に対する満足度の影響を受けていると考えられます。

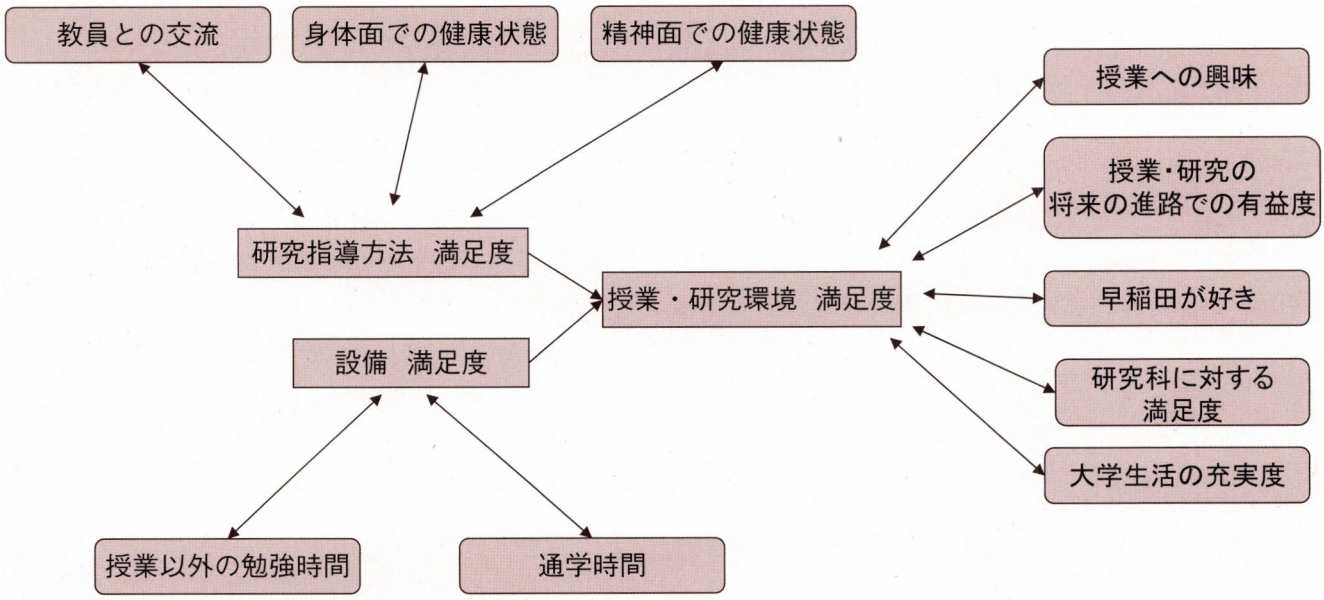
これらの基本的な3種類の異なった満足度の関係を参考にしながら、その他の設問がどの満足度と密接にかかわっているかを探っていきましょう。概要は次頁の図を参考にしてつかんできていただきたいと思いますが、まず注目に値するのが、大学院学生が授業や“研究環境”に高い満足度を感じることに起因する好循環が想定される点です。この面での満足度の高い大学院学生は、大学院に対する満足度が高まる、大学生活が充実する、そして結果として早稲田がより好きになるという傾向を示します。同時に、このような学生は、授業・研究などが自分の将来にとって有益なものであると判断し、さらに授業へ強い興味を示すようになるため、結果としての学問的な達成度も相対的に高くなっていると容易に推測されます。まさに今後大学が育てていかなくてはいけない人材、つまり“早稲田ファン”のコアとなる人たちです。これらの相関関係は、大学生活の根幹ともいえる学生の授業や研究に対する満足度を高めることが、大学にとって、そして教員にとって、どれほど大切なことであるのかを如実に示しています。

一方、大学院学生の総合的な満足度は、一つには、研究指導の方法に強く影響されています。大学院学生の教員との交流の頻度が高くなればなるほど、彼らの満足度も高くなります。更に、特筆に値するのは、研究指導に満足している大学院学生は、身体面そして精神面においても高い健康状態を示す、という点です。また当然、心身共に健康な大学院学生は、より熱心に授業・研究にあたれると推測されます。この好循環を維持するために大きな役割を果たしているのが教員と大学院学生の交流の量（と、おそらく質）であるという点は、大学院学生と教員との間の共通認識となる必要があります。そのためにも、教員と大学院学生が、それぞれ何に対して責任をもち授業や研究に望まなくてはいけないのかという点は、両者間の交流の初期段階で、一度徹底的に議論される必要があるでしょう。このプロセスを抜きにして、有効かつ長期的な交流は醸成されません。

総合的な満足度に影響を与えているもう一つの要因が、大学院学生の設備に対する満足度です。まず、この満足度が高まるほど、授業以外の勉強時間が長くなる傾向があります。つまり、自習ス

ペースや図書室、また議論のためのエリアなどの施設を充実させればさせるほど、大学院学生は授業という枠を越えて、自ら何かをつかもうと努力するという姿勢がイメージされるのです。加えて、大学院学生の通学時間が短くなればなるほど、彼らの設備に対する満足度は高まる傾向も読み取れます。キャンパスのロケーションそのものが、大学院学生からみた“設備”の質を判断するための、一つの重要な指標になっているということです。

大学院学生満足度と他設問との関係



コラム

若手の育成と研究環境の充実　「グローバルCOEプログラム」

文部科学省が実施する事業「グローバルCOEプログラム」に今年度、３件の教育研究拠点が採択されました。これで、本学では平成19年度採択の４拠点と合わせ、計７拠点が活動を行うことになります。

グローバルCOEプログラムは、平成14年度から文部科学省において開始された「21世紀COEプログラム」の基本的な考え方を継承しつつ、大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とした事業です。

採択年度	学問分野	拠点のプログラム名	中核となる専攻名	拠点リーダー名
20	機械、土木、建築、その他工学	グローバル ロボット アカデミア	創造理工学研究科 総合機械工学専攻	藤江正克 （創造理工学研究科）
	社会科学	制度構築の政治経済学	経済学研究科 応用経済学専攻	田中愛治 （政治学研究科）
		成熟市民社会型企業法制の創造	法学研究科 民事法学専攻	上村達男 （法学研究科）

大学院

早稲田ブランド依然強力、しかし決め手は教育・研究の質と教員か？

なぜ早稲田なのか

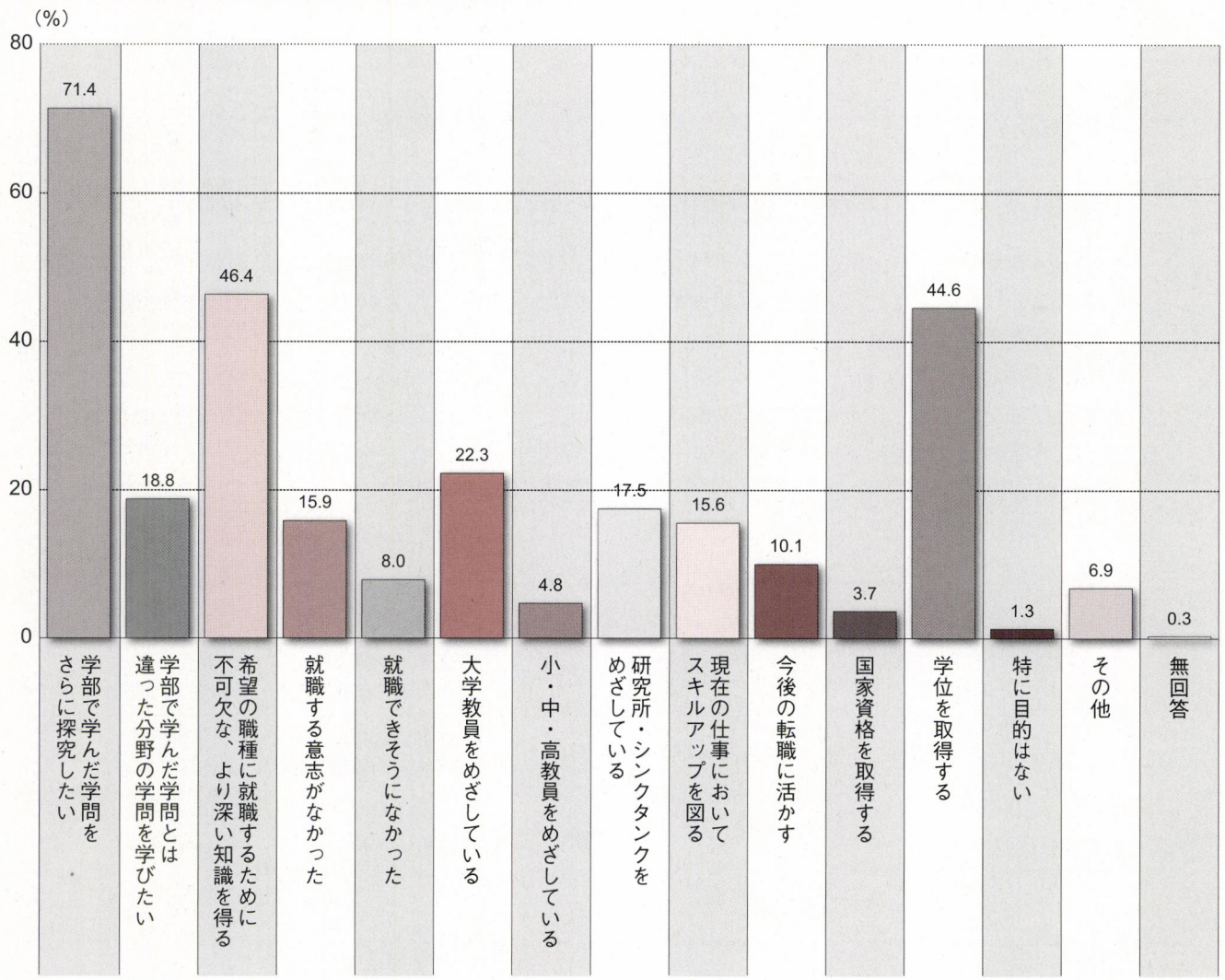
POINT 理工系研究科では**90%**超が学部から持ち上がり
職を辞しての入学者は「教員」という指標を重視

誰でもが、期待と現実とのギャップに悩む、というような経験はしたくないはずです。それでは大学院学生は、どのようなキャリアを経た上で、またどのような期待を持って早稲田大学の大学院に入学したのでしょうか。この点をよりよく理解することこそが、大学院学生により高い満足を感じてもらうための出発点です。

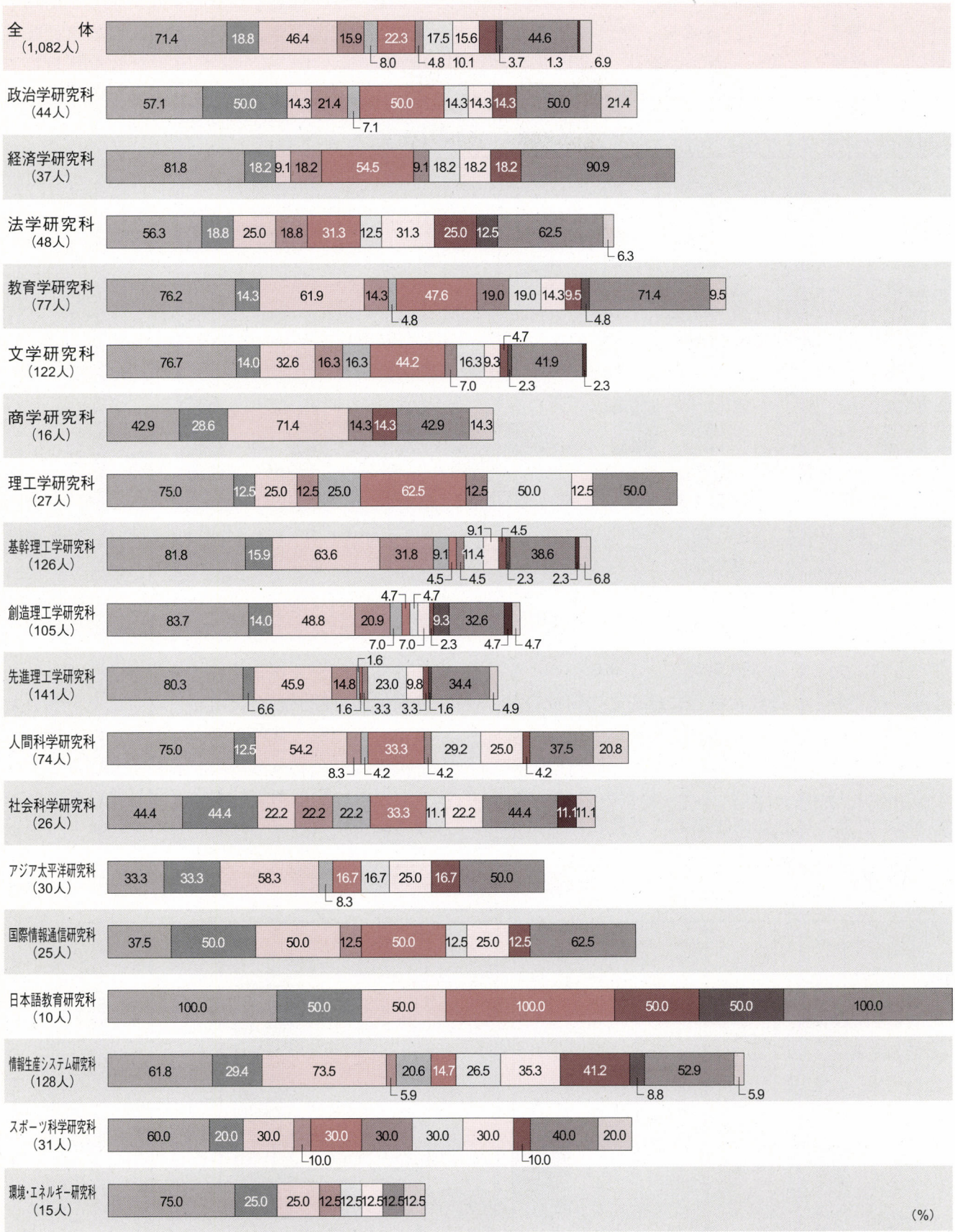
まず、なぜ大学院なのかという点では、大学院学生が答えた３大理由として、「学部で学んだ学問をさらに探究したい」（71.4%）、「希望職種に就職するために不可欠なより深い知識を得る」（46.4%）、「学位を取得する」（44.6%）があげられます。これらは、研究科にかかわらずある程度共通した志望理由となっています。

研究科別の特色としては、文学研究科では、大学教員を目指して大学院に入学する人の比率が相対的に高いのに対し、先進理工学研究科においては教員を目指している人は相対的に少ない点があげられます。

大学院を受験した理由は何ですか？［複数選択可］



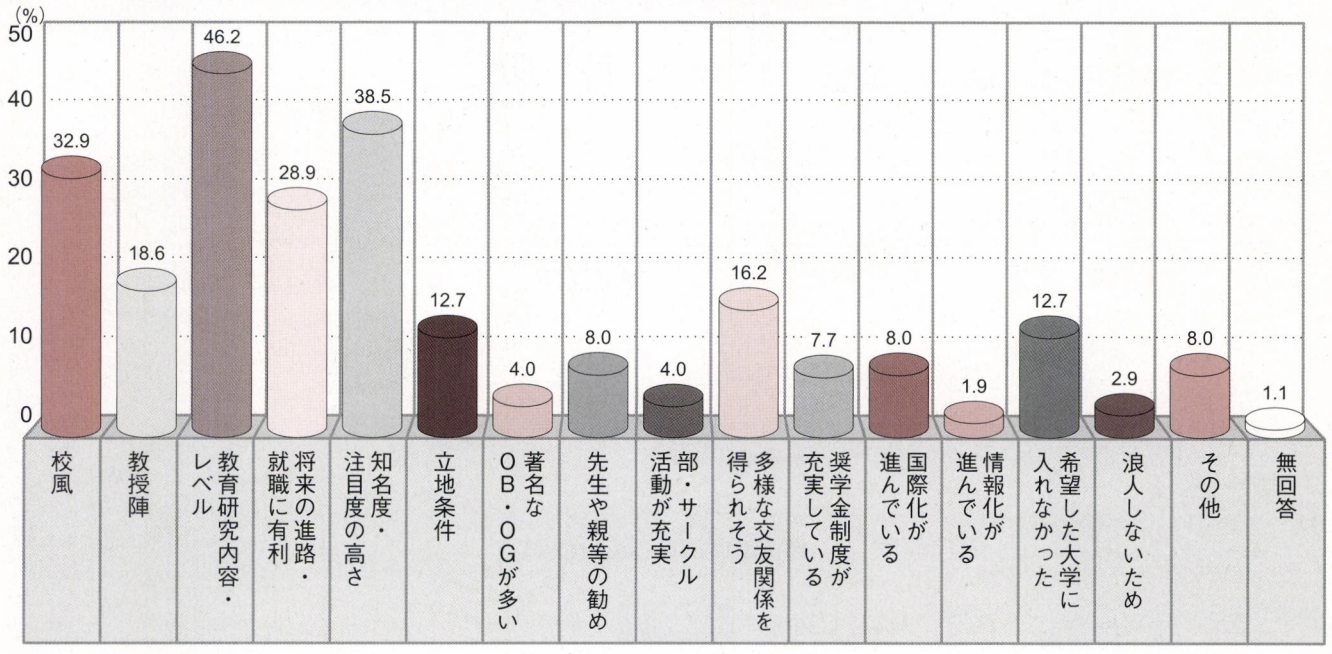
大学院を受験した理由は何ですか？［複数選択可］ 所属箇所別



- 学部で学んだ学問をさらに探究したい
- 希望の職種に就職するために不可欠な、より深い知識を得る
- 就職できそうになかった
- 小・中・高教員をめざしている
- 現在の仕事においてスキルアップを図る
- 国家資格を取得する
- 特に目的はない
- 学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたい
- 就職する意志がなかった
- 大学教員をめざしている
- 研究所・シンクタンクをめざしている
- 今後の転職に活かす
- 学位を取得する
- その他

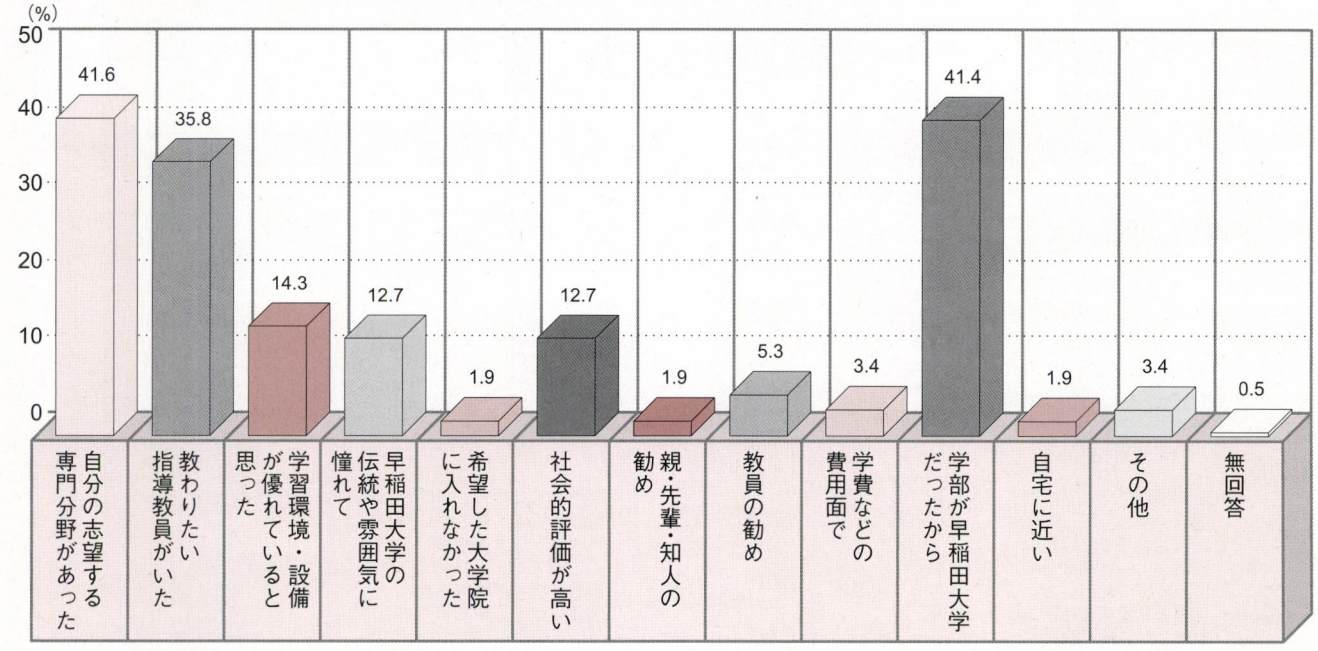
それでは、なぜ早稲田大学なのかと一般的に聞いた場合には、46.2%が「教育研究内容・レベル」と答え、次いで「知名度・注目度の高さ」38.5%、「校風」32.9%、「将来の進路・就職に有利」28.9%（以上、大学院学生）と早稲田大学のブランド力を示す項目が並びます。「教授陣」18.6%という選択肢が次点となりますが、企業を退職した上で大学院に入学した学生群は、この選択肢と「国際化が進んでいる」という選択肢を重視している点が興味深いところです。

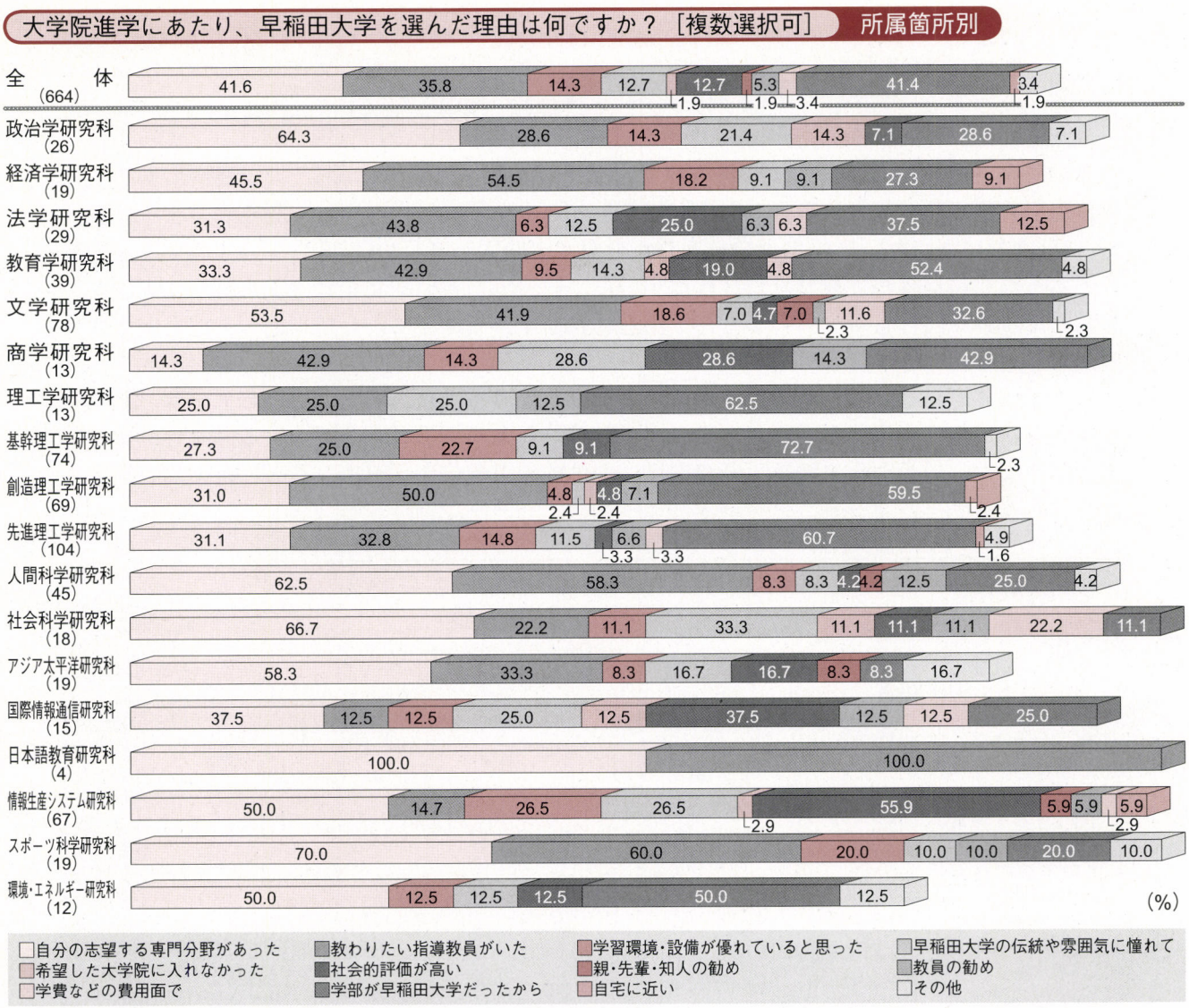
早稲田大学を選んだ理由は何ですか？（大学院学生）[複数選択可]



一方で、大学院進学にあたり、なぜ早稲田大学を選んだのか、と尋ねた場合には、どの研究科に属しているかにかかわらず、ある程度共通した理由としてあげられる「自分の志望する専門分野があった」41.6%、「教わりたい指導教員がいた」35.8%の二点、そして理工系の大学院に顕著にみられる「学部が早稲田大学だったから」41.4%という理由の、計三点が突出して高い比率を示しています。その他、特色ある傾向として、希望した大学院に入れなかったため」と答えている学生の比率が、政治学研究科において相対的に高い点があげられます。

大学院進学にあたり、早稲田大学を選んだ理由は何ですか？[複数選択可]





大学院学生にはいくつかの特徴あるグループが存在しているようです。第一にあげられるのは、理工学系の研究科に入学した大学院学生のグループです。基幹、創造、先進理工学研究科の三研究科では軒並み90％を超える大学院学生が学部から直接進学したグループを形成しています。今回の調査から、(1)学部から直接大学院に入学しているグループでは、「教授陣」という選択肢を相対的に重視していない、そして (2)一般に早稲田ブランドは健在である、というようなことも判っています。このグループに属する大学院学生の満足度を高めていくためには、早稲田ブランドを所与とした上で教育や研究内容を高いレベルで維持することが大切となってきます。先に述べた、大学院学生の満足度と関連の高い項目も参考にすれば、おそらく、「教授陣」の充実もさることながら、カリキュラムの内容と流れを、よりしっかりと構成されたものにするとともに、それをサポートする設備を充実させていくことが、効果の高い方策と思量されます。

他の特色あるグループとしては、文学研究科、人間科学研究科、アジア太平洋研究科、国際情報通信研究科などに多くみられる、いったん社会で経験を積んだ上で、企業を退職して大学院に入りなおした方々、つまり一旦は外から早稲田大学を見つめた方々、が挙げられます。このグループの方々は、もちろん早稲田ブランドにも惹かれていますが、加えて相対的に”早稲田大学の教員に惹かれる→早稲田大学が好きであり、早稲田大学大学院に進学したい”と思いを強くしている方々です。このような方々の満足度を更に高めていくためには、カリキュラムの充実は当然ですが、加えて、各大学院学生と担当教員間の個別のやりとりを通じて、どのようにしたら、学生が自己を振り返り、そして高めていく機会を多く持つことができるのかという点に、教員は意識を振り向け、実践に移していく必要があります。

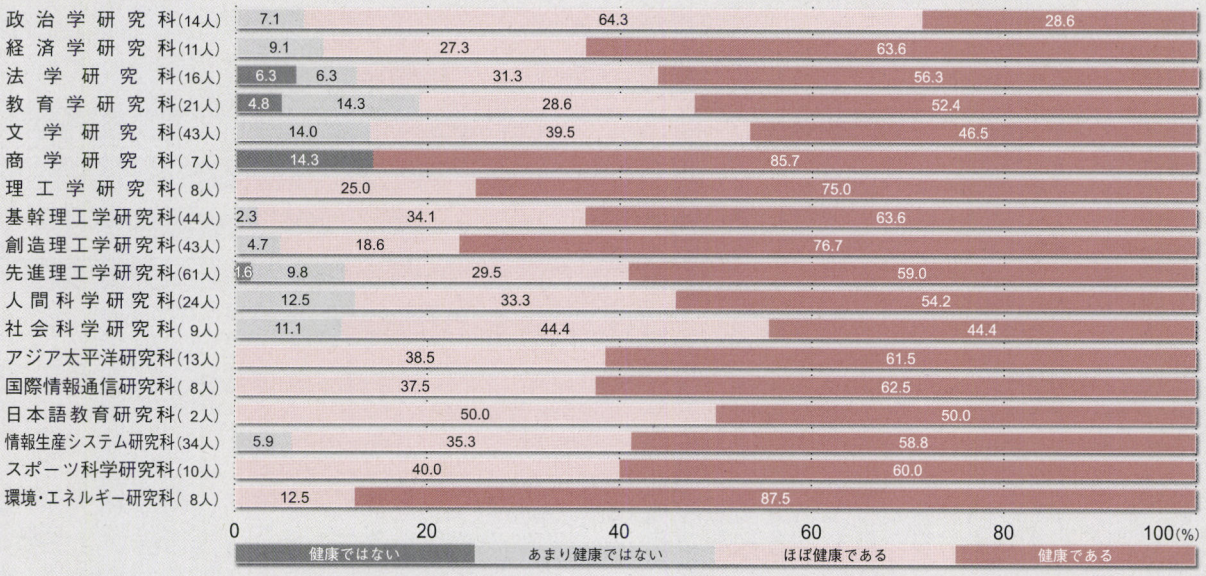
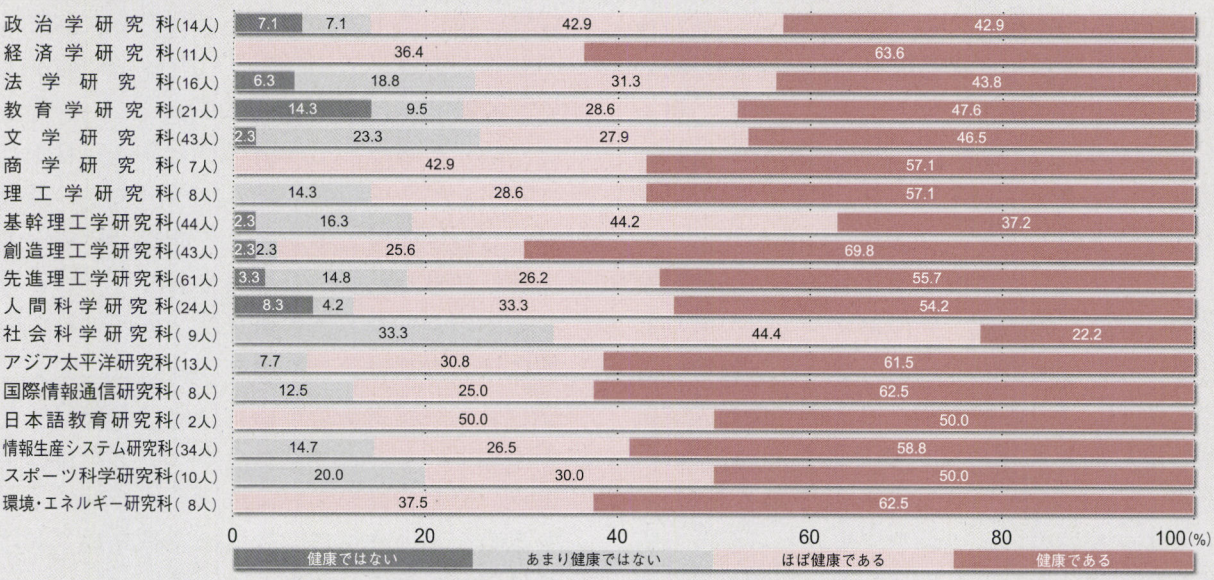
コラム

大学院学生の健康状態は？
意欲を持つことにより健康状態は良好になる？

大学院学生の精神面・身体面の健康状態を見てみると「健康である」「ほぼ健康である」と身体面で9割、精神面で約8割の学生が回答しています。54頁のグラフで見られるように設問「大学院進学にあたり、早稲田大学を選んだ理由は何ですか？」では、「自分の志望する専門分野があった」(41.6%)、「教わりたい教員がいた」(35.8%) というように意欲を持って大学院に進学したという回答も多くありました。生活に目標を持つことにより精神面の健康も向上するのかもしれません。

大学では、研究推進のための支援、若手研究者の育成のほか、広く開かれた大学院、社会人も働きながら学べる環境を整えています。また、社会人の入学者も受給できる充実の奨学金制度もあります。このように授業、研究環境、大学施設の改善にも努め、さらには学ぶ意欲も応援していきます。

あなたは今、身体面で健康な状態（勉学に支障がない程度）だと思いますか？ 所属箇所別



あなたは今、精神面で健康な状態（勉学に支障がない程度）だと思いますか？ 所属箇所別